

センター通信

知床森林生態系保全センター

林野庁には「グリーン・サポート・スタッフ」(GSS)という職員がいることをご存じでしょうか。国有林内で巡視や入山者への指導・啓発、簡易な施設補修などを行う非常勤の職員です。

知床森林生態系保全センターでは、6月から11月末まで3名のGSSが勤務しています。GSSの生の声をお届けすべく、インタビューしましたので紹介します。

【GSS紹介】



小林
神奈川県出身
北海道移住歴
16年目



後藤
神奈川県出身
北海道移住歴
11年目



櫻井
東京都出身
北海道移住歴
35年目

今年度の活動を振り返ってみていかがでしたか。例年と変わったことはありませんか。

小林：今年は雪が少なかつたせいか、ササが例年以上に茂って歩道の草刈りがとても大変でした。

後藤：例年なら3〜4日で終わるところが今年は8日〜10日かかりました。

今までで印象に残った業務を教えてください。

櫻井：知床連山の縦走巡視かな。ハードだけど楽しかったです。

後藤：そうでした。泊まりがけの仕事が印象的です。あとは歩道の崩れたところや壊れた橋を直すのもおもしろかったです。

知床ならでの課題は何だと思えますか。特に巡視中に感じることを教えてください。

後藤：知床といえば、クマ問題が大きな課題です。カメラマンや観光客はクマを見たいと思って知床に来ている人が多いので、完全に自然のクマの生態を

見せられる方法を考えるべきだと思います。

櫻井：ゴミのポイ捨て問題もそうですね。ポイ捨てされた生ゴミをクマが食べて、味を覚えてしまうと、その後は捕殺対象になってしまいます。ただ、ポイ捨てをする観光客が一方的に悪いというわけではなく、受け入れ側もゴミ箱など整備する必要があると思います。

小林：本州の高速道路のサービスエリアでゴミ箱が10mぐらい並んでいるのを見て、細かく分類されて良いなあと思ったことがあります。そのようなゴミ箱が知床にもあったらポイ捨ても減るのかもしれないと思います。

櫻井：利用者側、受け入れ側の両方が考えなくてはいけない問題ですね。

登山などで国有林に入林される方にメッセージを。

後藤：日本中の国有林を幅広く見てほしいです。有名などころだけでなく、マイナーなところでも、きれいなところはたくさんあります。ピークの時期だけでなく、あえて時期をずらして行くと新しい発見もあるのです。一箇所に集中せず、分散して楽しんでほしいです。

小林：山に入るときは無理をせず、時間に余裕を持ってほしいです。それから、ゴミは持って帰ってほしいです。

櫻井：大学生のときに先生から「ミスナラはなくなっていく」と聞きました。全国的にはそうなのかもしれませんが、知床にはミスナラの巨木が多く残っていて、すごいと思います。知床に来た人には見てほしいなと思います。



北海道森林管理局HPIにてGSS活動日誌を発信しています

